

第156回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成22年3月11日(木) 11:00～12:30

2 開催場所 宇都宮グランドホテル会議室

3 委員の出席 委員総数 8人
出席委員数 7人

(1) 出席委員の氏名 青木 敬信(委員長)
早川 富美子(副委員長)
片岡 真理
片山 貴之
古磯 勝子
島田 恭子
森内 律子

(2) 欠席委員の氏名 須賀 英之

(3) 放送事業者側出席者 神野 俊彦(代表取締役社長)
池田 喜一(取締役放送部長)
佐藤 望(放送部部長代理)
平沢 友幸(放送部)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

平成22年2月28日に放送した特別番組「石野田奈津代 生きて・てくてく」について、試聴と意見交換を行った。

事業者 この番組は、大田原日赤病院で行われた石野田奈津代さんのチャリティライブの様相を昨年12月に特別番組として放送したものの再放送分です。

病院内でのコンサートで80名程度の観客でしたが、心を癒すすばらしいコンサートであったため、自殺の防止・啓発運動を推進している栃木県の提供を受け再放送したものです。

番組では、ナビゲーター鹿島田千帆が、石野田奈津代さんのライブの様相やインタビュー等を交えながら、「生きる」ことについて考えていきます。

【 番組の試聴 】

委員 病院内でのコンサートということで、明るい雰囲気での放送かとイメージしていたが、試聴してみて非常に考えさせられる内容の番組であった。

石野田さんのコンサートの雰囲気と県の自殺防止対策という施策が、押し付けがましくなく、うまく構成されていたと思う。

ナビゲーターの話し方もとても落ち着いた口調・テンポでいい感じであった。

石野田さんの声や話し方は、最初に聞いたときは子供っぽい感じがしたが、聴いていくうちに、彼女の体験や生き方、考え方が自然体で素直な感じで表現されていたと思った。

委員 番組の編成上きれいにまとまっていたが、コンサートのライブ感をもう少し前面に出したほうが、また、明るい雰囲気での番組としたほうが良かったのではないかと感じた。

事業者 第1回目の放送は、入院患者やその家族を対象として、癒しを目的としたものであったが、再放送は、自殺防止対策の趣旨を加え再編成したものである。

委員 いのちの電話のインタビューに関しては、あらかじめ用意した内容での進行という感があつたが、相手とのやり取りを広げながら、会話を深めていくという構成の方が良かったのではないかと感じた。

委員 番組を聴いて、県内における自殺者や悩みを抱えた人の多さを再認識した。こういった社会性を持った番組を制作することは、地域のメディアとして大変素晴らしいことではないかと感じた。

石野田さんの音楽や声がすばらしく、音楽で人の心を癒すことができるということは、本当に素晴らしいことだと感じた。また、語りかけるようなナレーションの雰囲気に好感が持てた。

委員 石野田さんの声や音楽には暖かい人柄や雰囲気がよく現れているが、再放送として暖かなコンサートと自殺防止対策という重いテーマを組み合わせた構成については、一部違和感があり、賛否両論があるものと思う。

石野田さんの音楽は、オリジナルで自分の思いを伝えており、観客・リスナーに伝わるものがあると思う。

インタビューの部分で話と歌がかぶっており、歌詞の内容をうまく受け取れなかったのも、もう少し工夫が必要ではなかったか。

番組としては、テーマの取り上げ方、企画の方向性がとても良いので、このような番組を今後も制作してほしい。

委員 コンサート番組と自殺防止対策を結びつけたのは良い発想だったと思う。

県内で自殺者が多いということを多くの県民が理解することは大切なことだと思うし、私もリスナーの一人としてこのことに気づいたことは大変良かったと思う。こうした社会的現象を問題提起した素晴らしい番組だと感じた。

委員 既存の番組に新たなテーマを加えて再放送するという発想は、なかなか良い企画だったと思うし、私としては、自殺防止対策を加えた番組であったからこそ興味を持って聴くことができた。

いのちの電話は、大変ご苦労されているが一般にはその苦労が知られていないところもあり、こうした形で紹介することはとても良い事であり、インタビュー内容も重要なキー

ワードが数多くあり、大変良いものであった。

リスナーに県内で自殺者が多いことを分かっていただけでも大変良いことだと思う。こうした企画によって自殺防止に対する認識を広めようとする県の柔軟な姿勢にも大変共感が持てたところであり、このような番組によって行政がより身近になる一歩でもあったのではないかと思う。

委員 自殺防止対策を番組として取り上げた姿勢については、委員の皆様が共感を持てるということであり、素晴らしいことだと思う。

ただ、番組を聴いて、コンサートの内容と自殺防止対策がストレートに結びつかなかった感がある。自殺防止という大きなテーマ、重いメッセージを取り上げたが、コンサートの内容が直接的に自殺防止ではなかったため、番組としての一貫性が感じられなかった。

一方で、番組全体としては、県の施策や各種の取組が多くの県民にアピールできた意義は大きいと思う。番組の企画として自殺防止という重いテーマを取り上げたことは、地域のメディアとして社会的価値が高いものがあると思う。

委員 再編成された番組であり、コンサート番組というよりも音楽を通して県の取組やメッセージが効果的に伝わったものと思われ、そこにこの番組の価値があったものと思う。

できれば、全体として統一されたテーマの下でイベントや番組を構成するほうがリスナーにとって分かりやすいと思う。

自殺の現状を県民が知る、悩みを抱えている姿に気づく人が増える社会をつくるという方向性を今後とも追求して行ってほしい。

(以上)

(2) その他

第8期放送番組審議会委員の任期が平成22年3月31日までとなっているため、社長から感謝の意を述べた。

(3) 次回開催日程について

審議会の開催日について月の第1木曜日を基本とすること、次回の開催を4月1日(木)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

(1) 放送 3月28日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内。

(2) 書面 本社事務所に備え置き。

(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内。

8 その他の参考事項
なし